

薬理パフォーマンス課題① 解熱鎮痛薬編

本時の学習目標

- ・薬理作用や薬物の体内動態を理解する
- ・薬物の効果や、身体への影響、効果に影響を及ぼす因子について理解する
- ・在宅・外来で起こりやすい事故について理解する

;

事例	自宅で適切な服薬管理ができるよう説明を行ないましょう。 (内服の例) 解熱鎮痛剤、降圧薬、抗血栓薬、気管支喘息治療薬など
----	---

学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準			学習の視点
			A	B	C	
事例の患者さんが自宅で適切な服薬管理ができるよう、説明を行う。	患者が納得し、適切な内服管理行動がとれるような説明をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・患者への説明内容 ・患者への提示資料 ・質問への受け答え ・RF ・PF 	効果に影響を及ぼす様々な因子(生活行動、食事との関係、他の薬物との相互作用など)について説明し、患者の状態に合った方法で説明し、適切な方法について具体的に示している	薬物療法によって予測される主作用や有害作用の危険性について、体内動態に基づきながら説明している	薬物の使用目的を明確にし、その期待できる効果について、具体的に説明している	<ul style="list-style-type: none"> ・使用目的 <ul style="list-style-type: none"> ▶原因の除去 ▶症状の抑制 ▶予防 ▶診断 ・アドヒアランス ・医薬品情報 ・飲食物、嗜好品と医薬品の相互作用 ・薬理効果 ・体内動態 ・身体への影響 ・効果に影響を及ぼす因子 ・主作用や有害作用とその危険性 ・有害作用に対する適切な対応 ・在宅、外来での事故防止策

テーマ	解熱鎮痛剤を処方された患者への服薬指導		
学年・人数	1 学年 11 名		
場面設定	感冒症状と 38.8℃の発熱で外来を受診した患者に薬が処方されました。自宅で適切な服薬管理ができるよう説明を行う場面。		
時間配分	全体の時間 45分	シミュレーション時間	5分
		導入(ブリーフィング)時間	15分
		デブリーフィング時間	25分
学習目標	1. 患者が納得し適切な内服管理行動がとれるような説明ができる。		
患者情報	<p>氏名： 秋月 うめ 年齢： 42歳 性別： 女性 キーパーソン： 夫 家族構成： 夫と3人の子どもの5人暮らし 診断： 上気道炎 背景：</p> <p>2日前から咽頭痛や頭痛が出現。市販の総合かぜ治療薬を服用していた。本日朝から咽頭痛が強く、食事も摂取できない状態となる。また悪寒と発熱があり外来を受診した。</p>		
シミュレーションの課題	感冒症状と発熱(現在 38.8℃)で外来受診した秋月さんに解熱鎮痛薬が処方されました。この薬をはじめて服用するうめさんに、自宅で適切な服薬管理ができるよう説明を行ってください。		
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患 ・薬の使用目的 (原因の除去・症状の抑制・予防・診断) ・アドヒアランス ・医薬品情報 ・飲食物、嗜好品と医薬品の相互作用 ・薬理効果 ・体内動態 ・身体への影響 ・効果に影響を及ぼす因子 ・主作用や有害作用とその危険性 ・有害作用に対する適切な対応 ・在宅、外来での事故防止策 		